

# 新宿折をり

NO. 39

平成 30 年 10 月 13 日  
東京都立新宿高等学校  
進路指導部

- センター出願状況
- 国公立大対策会報告
- 分野別模擬講義予告 (2 年)
- 科目選択の考え方

## 雑 感

国語 池田 篤

私は高校時代から国語教員という仕事を選択肢の中に入れていました。こう書くと明確な進路希望を持った立派な高校生のように見えますが、実際には「とにかく本に関わる仕事がいいな」と思っただけです。本が見せてくれる世界が好きだったのです。だから大学は文学部（周囲には将来を心配されましたが）に行き、出版社や教育関係を目指しました。

そして、幸いにも教員という仕事に就けたわけです。生徒から「なぜ教員に？」と聞かれると、「本を読んでも仕事だと思われるのは教員くらいだから」と答えていた私ですが、長年この仕事をしている内に「これって頼りない動機だと思っただけで、意外と立派な志望動機かも」と思うようになりました。

話が飛びますが、教員をしていると生徒に「将来について」話さなければならない時があります。そんな時、私はよく「将来仕事をした時の時給を考えてごらん。分給を考えてごらん」と問い掛けます。(勿論、分給なんて言葉はありません) 給料を時給に換算する方法は色々あるでしょうから、漠然と「3000円」(ちょっと高いかな?) に設定します。その1/60が「分給」というわけです。「50円」になりますね。そう考えさせた後で「仕事場の机に向かって2分経ったら缶ジュースが一本飲める、3分経ったらペットボトルが一本買える。そう思いながら時間が過ぎるのを待っている自分、それを想像してごらん」と言うと、大体の生徒が嫌な顔をします。それは、自分自身の「お金の為に自分の時間を切り売りしている」姿をイメージするからではないかと思います。でも「仕事をしている内に、いつの間にか1時間が経っていた。目の前にペットボトルが20本積み上がっていた」と考えることも可能です。やはり「ああ、やっとのことで1本分の時間が経ったな」という仕事はきついだらうと思います。

そしてこれも「今になって思うこと」ですが、私にとっての「やれるだろう仕事」を発見させてくれたのは高校生活だったと思います。そんなに積極的な高校生ではなかったけれど、行事に参加して、色々な教科・先生に触れて、高嶺の花に憧れて、柔道部の試合で大負けして、叱られたり褒められたりしました。プラスの影響もマイナスの影響も、どちらも受けたと思います。古文の時間に褒められて嬉しかったことが記憶にあると同時に、数学の追試を受けたら追追試になってしまったことも覚えています。果たして、どちらが国語教師になるきっかけだったのでしょうか? 自分でもわかりません。ただ言えるのは「何もしないで黙っていても、自分のことはわからない」ということです。

また話が逸れますが、私は「自分探し」という言葉が好きではありません。自分の内部を探っても何も出て来ない。他人にぶつかって自分が新しい反応をして、それで少しは自分がわかる。自分で自分を探したって、元の自分が見付かるだけじゃないでしょうか。

## ○センター出願状況

313名のセンター試験志願票を発送し、まもなく大学入試センターから「確認はがき」の第一陣が届く頃です。

担任の先生から「確認はがき」をもらったら、氏名や住所、登録教科、受験科目数などを、志願票のコピーと照らし合わせて確認してください。訂正等が必要な場合は11月6日までに学校で一括して大学入試センターに「訂正届」を出さなければなりません。日程に余裕が無いので、すみやかに確認しましょう。また、受験教科や受験科目数の変更も今回に限り受け付けてもらえます。万が一訂正や修正が必要な場合は10月30日(火)までに担任の先生を通して申し出てください。問題がなければそのまま「確認はがき」を保管しておいてください。

## ○大学の願書について

数年前までは、主な私立大学の入学願書を学校で取り寄せて校内で配布していましたが、この数年でほとんどの私大がWeb出願方式に切り替えているため、紙の願書の配布は行いません(と言うより、できません)。各大学のHPに出願の方法が詳しく載っていますので、受験を考えているところのものは早めにチェックしてください。

一方、国公立大学では、Web出願と従来通りの紙の願書が混在しています。HPで確認のうえ、**願書は各自で入手**してください。願書の取り寄せについてはすでに配布している「テレメール願書請求カタログ」などを利用するとよいでしょう。センター試験の結果次第で受験する可能性の出てくる大学の願書は必ず事前に入手しておきましょう。また、後期日程も出願期間は前期日程と同時期です。

願書配布時期は各大学で異なるので必ずHPで確認しておきましょう。

## ○中間①考査に向けて

来週から中間①考査が始まります。今回は7月の考査後の授業が試験範囲になりますので、科目によっては夏休み前の授業が範囲に含まれます。復習しておきましょう。3年生は今回と12月の考査でおしまいになります。最終成績を左右する重要な考査です。しっかり準備して臨みましょう。

### 国公立大学入試対策会報告

去る9月28日、前期終業式の午後に3年生を対象とした「国公立大学入試対策会」がありました。河合塾新宿校の亀井氏の講演、および東工大生・一橋大生2人の先輩(70回生)の体験を聴くことができました。実践的なアドバイスも多く大変参考になりました。来年は現3年生の皆さんが講師となって母校の後輩に語りかけてください。

## ○分野別模擬講義(2年生 予告)

考査後の10月31日(水)午後、2年生を対象に「分野別模擬講義」が実施されます。各大学から先生をお招きし、それぞれの専門分野の授業を行っていただきます。しっかり聞いて今後の進路選択に活かしましょう。

参加校	参加講師名
早稲田大学	文学部准教授 佐藤尚平先生
東京外国語大学	世界言語社会教育センター助教 柏崎正憲先生
東京学芸大学	教育実践研究支援センター准教授 大森直樹先生
一橋大学	法学部 専任講師 小峰庸平先生
東京大学	生産技術研究所特任研究員 島 亜衣先生

東京工業大学	生命系 准教授 蒲池利章先生
東京薬科大学	薬学部 准教授 小倉健一郎先生
慶應義塾大学	経済学部教授 藤田康範先生
千葉大学	看護学研究科 教授 和住淑子先生

まなことに関心を持ち、貪欲に学ぶ姿勢を持ちましょう。

それは、巡りめぐって大学受験にもどってきます。これからの大学入試では既成の教科の垣根を越えた合教科的な問題が増えていきます。分野の異なる複数の資料を関連づけて読み解く能力は、幅広い知識と柔軟な思考力があって初めて可能になります。さまざまな教科・科目を学ぶ意義はそうしたところにありそうです。

### ○11月6日は模試の日

11月6日は模試の日です。1年生と2年生はベネッセの進研模試、3年生は駿台ベネッセマーク模試を受験します。どの学年の模試も今後を占う上で重要な模試です。前回の模試の結果を踏まえて対策を講じましょう。

### ○科目選択の考え方

2年生は、次年度の科目選択を決定する時期になっています。

科目を選ぶ際の一つの基準が大学入試科目です。自分の志望する大学の入試科目を調べ、それに対応できる科目選択をしましょう。河合塾の「栄冠めざして vol.2」を全員に配布しました。そこにすべての大学の受験科目が載っていますので参考にしてください。ただし、これは31年度、現3年生の入試の科目です。一年後、あるいは二年後に科目が変更になる可能性がなくはない（ありうる）ということも覚えておきましょう。

そこで二つ目の話になるのですが、入試科目だけを意識したぎりぎりの選択をするのではなく、余裕をもった選択をしてほしいと思っています。そもそも皆さんは受験生である前に高校生であり、将来、社会人として生きていくうえで必要な知識を幅広く学ぶ必要があります。18歳からの選挙権も認められるようになっていきます。社会のさまざま

### 【今後の予定】

- センター確認はがき到着
  - ※ 科目等修正の最後の機会
- 実力テスト 10/16 火（3年）
- 後期中間①考査 10/25～30（3年は24～）
- 第3回河合塾全統マーク模試 10/28日  
(3年希望者 85名)
- 分野別模擬授業 2年 10/31 午後
- 実力テスト 11/6 火（1、2、3年）

### 先輩からの言葉

「勇気だけで人生は上手くいくか」。どうか。

平岡 啓（28回生）日本経済新聞社 常務取締役

10年以上前のことですが、未だ旧校舎だった新宿高校の教員室を訪れる機会がありました。校舎内で迷っていると数人の生徒が「どちらかお探しですか」と声をかけてくれました。屈託

のない声で「こんにちは」とたくさんの挨拶をいただきました。とてもいい気分です。こんな学校だったら今でも入学したいと思ったものです。

自分の高校時代に訪問者に挨拶なんてしたことはありません。独りよがりの勉強もろくにしないヒネた高校生でした。そんな生徒が大勢いる学校には今なら入りたいとは思いません。ただ、私の周辺には、子どもの数が減り卒業した高校が無くなったり、併合されたりして母校がなくなってしまった人もいます。40年以上たっても進化する母校があることは卒業生にとっても幸せなことです。

新聞記者を初めて目にしたのは高校生活も終わりに近づいたころでした。元首相が逮捕され戦後最大といわれた疑獄事件の捜査が進んでいました。黒幕の一人と目される右翼の屋敷が自宅から駅までの通学路にありました。昼夜を問わず黒塗りの車が門前に並び、毎朝、ネクタイを外し、タオルを手にした不機嫌そうな男たちが続々と車から出てきて小学校の水場で顔を洗っていました。皆無言でおはよう、の一言もありません。一日中何をしているのか全く分かりませんが、愛想とか儀礼が全くない世界で自分たちの仕事を黙々とこなしている……。そんな姿は目に焼きつき、カッコいいなあ、と思いました。

大学4年で新聞社を受験する際には忘れ難い言葉もありました。当時の新聞社は11月1日から各社一斉に記者の採用試験を開始していました。かなりの倍率で運次第のような面もありました。それ以外の業界は概ね10月初めには内定が出ていて、私は就職活動をせずに11月の試験に向けて春先から準備を進めていました。このときだけは真剣に勉強しました。そんな中で断れない人の紹介で、ある企業の面接を受けて9月中旬に内定が出ました。

嫌いではないけれど第1希望でない会社に進んで良いものかどうか。悩んだ末に理由を説明し内定辞退を連絡して非礼を詫びたところ、会社の幹部の方にこんな風に言われました。「人生は勇気だけで上手く行くと思っていたらそれは違います」

大した才能のない人間が自分の思い込みだけに賭けるのは思い上がりというものかもしれません。運よく望んだ仕事を手にしたけれど、もしそうならなかった時どうなっていたのか。若

さのエネルギーは危うさと紙一重だったと気づくのはずいぶん後のことでした。今なら私も同じことを言いますが、そうしたいと言う若者を止めることもしないと思います。自分で決めるしかないことが生きている間にはいくつあると思うからです。

冒頭に書いた新聞記者の生態の話を補足しておきます。取材対象の動きを四六時中見張ることを「張り番」といいます。カッコいいと思ったのもその張り番の記者の姿でした。大きな誤解がありました。黙々と仕事をしていたのは何日も続く張り番で疲れ果て口をきくのも億劫になっていただけですし、それぞれライバル社の記者ですので愛想よくしては仕事になりません。何をしているのか分からないが、と書きましたが、ホントに何もしていないこともあります。全く動きがないような日々でも現場で目を離すわけには行かず、ただ門前に立っていることも珍しいことではありません。入社して程なく分かりました。

憧れに誤解も多かった仕事でしたが、大方どんな仕事もそんなものでしょう。それでも40年近く面白く過ごしてきました。余談ですが、この疑獄事件はいくつかのルートに分かれて裁判が進み、1993年に航空会社を巡る同事件最後の最高裁判決を私が書くことになります。不思議な縁があったわけです。

もう一つ。「ヒネた高校生だった」と書きましたが、斜に構えず唯一真正面から取り組んだのはラグビーでした。練習だけは休まずキャプテンも引き受けたし、どうすれば上手くなるのかいつも考えていました。強くもなくレベルは二流、三流だったと思いますが、私の密かな誇りです。仕事とは何も関係ないですが、これを書かずにいられるかということで最後に記しました。成果が上がったか、目標は達成できたかななどの結果にこだわらず、皆さんの一人ひとりの新宿高校物語を紡いでいつの日か後輩諸君に聞かせてやってください。新宿高校のさらなる進化のためにも。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)